

臨床的ニーズから生まれる製剤研究

-「臨床」と「製剤」の調和・融合による医療への挑戦

オーガナイザー

内田淳(山梨大病院薬)
嶋田努(金沢大病院薬)

昨今の目覚ましい医療の進歩により、多種多様な医療が施行されている。臨床現場では、薬物療法施行において、より質の高い医療の提供を指向した臨床的ニーズが生まれ、それに応えるため、課題解決が望まれている。これら臨床的ニーズの中には、製剤学的課題を有したものも数多くある。

そこで本シンポジウムでは、これら臨床的ニーズに応えるため、第一線で活動されている医療現場・大学の製

剤研究者から、臨床的ニーズの現状や課題解決に向けた取り組み等について最新の知見等を交えながらご講演いただき、臨床的ニーズに応える製剤学的アプローチのノウハウや研究成果の社会実装等の今後の展望等について、参加者と共に多角的に議論したい。

本シンポジウムが、臨床現場から生まれるニーズを的確に捉え、製剤学的アプローチによる科学的課題解決の推進、さらには、今後の医療の発展および創薬・育薬への戦略的確立の一助となれば幸いです。

(内田淳)

物理系薬学部会シンポジウム

物理系薬学の羅針盤

オーガナイザー

石濱泰(京大院薬)
米持悦生(星薬大)

物理系薬学は、薬学のみならず、物理化学、分析化学、放射化学などを中心とした幅広い学問領域をカバーしている。本シンポジウムでは、長年にわたり物理系薬学分野をリードして来られた経験豊かな4人の先生方(加藤博

章<京大院薬>、船津高志<東大院薬>、馬場嘉信<名大院工>、松崎勝巳<京大院薬>)に、ご自身の研究を中心に、各分野の歴史、現状、そして期待される将来についてお話しいただく。各分野における個別の深い議論に加え、物理系薬学という広い視野からの議論が、今後10年、20年の本領域のさらなる発展の羅針盤となることを期待している。(石濱泰)

がん薬物療法・緩和医療において、
薬剤師が効果的に持続可能な
貢献をするための方策とは？

オーガナイザー

徳山尚吾(神戸学院大学薬)

薬剤師は、癌薬物療法・緩和医療において、症状管理、治療計画のサポート、副作用/薬物相互作用の管理、薬物情報提供、家族教育などを担う不可欠なメンバーである。また、薬剤師がこれらに従事することの重要性は、既に多くの医療関係者、患者およびその家族が認識している。

一方で、薬剤師は最新情報にアクセスするための努力や自己啓発、学会参加や研究論文発表、病院・薬局内外で

のプロジェクトへの参加など専門性を高めるための活動を展開しながらも、十分に寄与できていないとの思いがあることも事実である。

従って、本シンポジウムでは、「がん薬物療法・緩和医療において薬剤師が効果的に持続可能な貢献」をするための方策について、病院、薬局、大学の最前線で実践・活動している医師、薬剤師、研究者を招集して、参加の皆様にご提案いただくことで、最新の情報を共有すると共に、今後の展望について大いに議論することを目的としている。(徳山尚吾)

卒業研究:科学的探究心を育むために

オーガナイザー

大寺恵子(東邦大薬)
竹平理恵子(北里大薬)

薬学教育モデル・コア・カリキュラム2022年度改訂版では、薬学研究は、科学的な探究を通して、薬学や医療の発展に貢献する研究に必要な課題発見能力・問題解決能力を身に付けることなどが学修目標として掲げられている。この学修目標に到達するために、これから多くの先生方が創意工夫を重ねながら卒業研究を進めていくのでは

ないだろうか。

本シンポジウムでは、薬系大学に所属し、研究分野の異なる先生方に、卒業研究において学生とどのように接し、どのような取り組みを行っているかについて紹介していただく。さらに、卒業研究開始前の薬学生と卒業研究を経験した薬局薬剤師を対象とした卒業研究の捉え方に関する意識調査結果を紹介していただく。総合討論では、新改訂コアカリ導入に当たり、より良い卒業研究とは何かについて議論したい。(大寺恵子)

有機フッ素化合物PFAS最前線:

基礎研究から健康影響、

国内外の規制動向まで

オーガナイザー

藤井由希子(第一薬大薬)
原田浩二(京大院医)

有機フッ素化合物PFASはその難分解性から「永遠の化学物質」と呼ばれている化学物質群である。代表的なPFASはペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)とペルフルオロオクタナ酸(PFOA)であり、2000年

以降はその残留性と毒性への懸念からPFASを製造・使用する各社でPFOSとPFOAの製造を自主的に廃止してきた。しかし、過去に使用されたと思われるPFOS、PFOAが環境中に残留し、近年、欧米で水道水濃度や血中濃度についての勧告が相次いで公表されている。またPFOS、PFOA以外の規制対象PFAS、さらに未規制のPFASも多数あり、それら

を含めた健康リスク評価に資する研究が必要とされている。

本シンポジウムではこのPFASの最新の状況について「PFASを巡る国内外の取り組み状況」「PFASのヒトバイオモニタリング」「日本におけるPFASのヒト曝露源」「PFASの健康影響:米国の臨床ガイドラインと沖縄県での疫学調査」「毒性学の基礎研究からの知見:PFASの毒性発現メカニズム」「PFASの体内動態:炭素鎖長による違いと動物種差」をテーマに、6人の発表者から報告を行う。

(藤井由希子)

祝 日本薬学会 第144年会

(順不同)

 <p>一般財団法人 日本医薬情報センター</p> <p>〒150-0002 渋谷区渋谷二丁目一五番一五(長井記念館) 電話 〇三(五四六)一八一 URL: https://www.japic.or.jp</p>	 <p>Pharmaceutical and Medical Device Regulatory Science Society of Japan 一般財団法人 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団</p> <p>〒150-0002 東京都渋谷区渋谷二丁目一五番一五(長井記念館) 電話 〇三(三四〇)一五八 FAX 〇三(三四〇)一五八</p>	 <p>一般社団法人 日本病院薬剤師会</p> <p>〒150-0002 東京都渋谷区渋谷二丁目一五番一五(長井記念館) 電話 〇三(三七九)五〇三 FAX 〇三(三七九)五〇三</p>	 <p>兵庫医科大学薬学部</p> <p>〒650-8530 神戸市中央区港島一丁目三番一六 電話 〇七八(三〇四)三〇〇</p>	 <p>神戸薬科大学</p> <p>〒658-8558 神戸市東灘区本山北町四一九番一 電話 〇七八(四五三)〇〇三</p>	 <p>立命館大学薬学部</p> <p>〒525-8577 滋賀県草津市野路東一丁目一 電話 〇七七(五六一)二五六三</p>	 <p>京都薬科大学</p> <p>〒607-8414 京都市山科区御陵中内町五 電話 〇七五(五九五)四六〇</p>
---	---	---	--	---	--	--

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp <http://www.yakuji.co.jp/>